

めおとの湯がリニューアルオープンします！

高齢者温泉交流館

日帰り温泉施設として親しまれていた旧めおと湯の館が、4月2日(土)から、高齢者の福祉施設『高齢者温泉交流館』として生まれ変わり、リニューアルオープンします。市内在住者で60歳以上の人や身体障害1・2級(介助者を含む)の人は、無料で利用できます。また、一般の人の利用は夜間のみで、市内外問わず大人300円・小人150円となります。

浴室に石鹸・シャンプー・リンス等は設置してありませんのでご持参ください。巡回バスの利用者は、月・水・金曜日に葦山方面を運行していますのでご利用ください。各地区の駐車場、時刻はお尋ねください。

4月2日
オープン

開館時間 9:00～17:00、18:00～19:30
入浴時間 10:00～16:00(高齢者等のみ)
 18:00～19:30(一般)
入浴料 60歳以上、身体障害者1・2級(介助者含む)の市民は無料、市外は300円
 18:00以降は市内外問わず大人300円・小人150円
休館日 日曜・祝日、年末年始、メンテナンス時
その他 毎週月曜・水曜日の13:30～15:00、木曜日の9:30～11:00に、高齢者温泉交流館で、高齢者の体操教室を開催します。ぜひご参加ください。

問合せ 高齢者温泉交流館(旧めおと湯の館) ☎055-949-3737
 高齢者支援課 ☎0558-76-8011



交通安全は家庭から

やめようよ 道路飛び出し 悪ふざけ
なかがわかずみ 中川和輝(葦山小)
 よく見てね 車は怖い 怪物だ
おののだありさ 大野田亜里沙(大仁小)
 ゆずり合い 止まる車に ありがとう
わたなべじゅんのすけ 渡辺淳之介(長岡南小)

交通安全標語コンクール優秀作品

問合せ 安全対策課
 ☎055-948-1412



交通安全協会大仁支部から

！ 昨年の交通事故発生状況について

岡県内の交通事故発生状況を見ますと、死者数は減少しておりますが、件数・傷者数は増加しております。

●件数 36,797件(前年比 プラス919件)
 ●死者数 165人(前年比 マイナス14人)
 ●傷者数 47,963人(前年比 プラス1,634人)

大仁警察署管内の交通事故発生状況を年齢別で見ると、高齢者(65歳以上)の交通事故件数が142件で最も多く、全体の約21%を占めております。事故を形態別にみますと、追突事故・交差点での出会い頭事故が多発している状況です。

伊豆の国市

●件数 400件(前年比 プラス7件)
 ●死者数 2人(前年比 マイナス1人)
 ●傷者数 533人(前年比 プラス21人)

伊豆市

●件数 275件(前年比 プラス31件)
 ●死者数 3人(前年比 マイナス1人)
 ●傷者数 409人(前年比 プラス57人)

誰もが交通事故を起こそうとして自動車運転しているわけはありません。しかし、運転する時は、常に気持ちに余裕を持って『交通違反や交通事故を絶対に起こさない』との強い気持ちを持つていただきたいと思います。

高 齢者の交通事故防止対策として、様々な事例と防止ポイントや道路交通法上の解釈を広報紙に掲載してきましたが、依然として事故は増加傾向を示しています。もし、皆さんが交通安全に関することや交通ルールの解釈などわからないことがありましたら、安全対策課までご意見をお寄せください。解答や返事についてはできる限り広報紙に掲載させていただきます。

競馬情報詐欺

(文と絵) 司法書士 山田茂樹

あなたも狙われるかも！悪質商法にご用心 ㊦



「既にオッズが確定しているレースがある」、「デキレースになっている」、「八百長が行われる」など、情報料名目等多額の金銭を詐取する事案が見受けられます。インターネット上あるいは雑誌の広告等に掲載されていた、競馬情報サイトに問い合わせたところ、あたかもレースの結果があらかじめ決まっているとして、その情報を利用することで高額な利益が得られるなどと勧誘し、金銭をだまし取るという手口です。悪質なサイトに誘われて、レース直前に「八百長をやることが発覚してレースが中止になった」などと告げ、結局、具体的な情報提供を行わないまま、姿をくらませてしまうケースすらあります。

このような情報を鵜呑みにすることは避け、慎重な対応をするべきです。もし被害に遭った場合は、消費者センター、警察、専門家等へ直ちに相談に行きましょう。

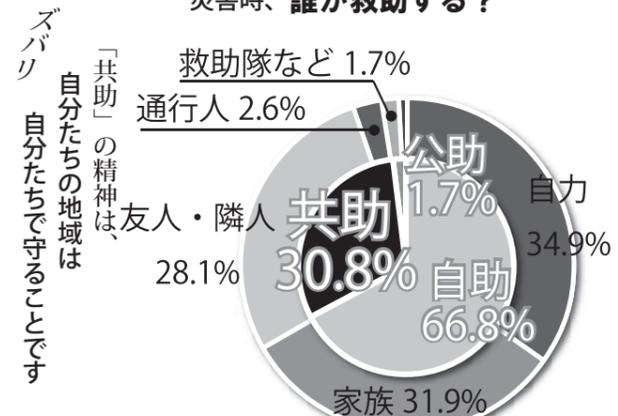
競馬に精通していなくても簡単に儲けられる…なんてオイシイ話はありません。十分気をつけましょう。

備えあれば 憂いなし!



問合せ 安全対策課 ☎055-948-1412

災害時、誰が救助する？



「共助」の精神は、自分たちの地域は、自分たちで守ることでず

約3割が隣人・友人・通行人など『共助』自力で逃げ出すことができなかった時にとても頼り(重要)になるということがわかります。

阪神・淡路大災害時に生き埋めになった人々を誰が救助したのかについて、左記のようなデータがあります。